

高等学校地理歴史科（地理）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	[例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	5		6
	2	2		6
	3	4		6
	4	1		6
	5	4		6
	6	7		6
	7	5		6
	8	4		6
	9	4		6
	10	6		6
	11	1		6
	12	2		6
2	1	6		8
	2	2		8
	3	2		8
3	1	2		8
	2	2		8
	3	7		8
4	1	7		8
	2	4		8
	3	3		8

高等学校地理歴史科（地理）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
5	<p>社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けることであり、考察、構想する際の視点や方法（考え方）。</p>		<p>内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。</p>	12
6	1	① 地区C	<p>全て合っているものだけを正答とする。</p>	8
		② 地区B		
		③ 地区A		
	2	地区名	④ 地区E	<p>地区名と理由がともに合っているものだけを正答とする。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。</p>
理由		⑤ 地区D		
<p>資料Ⅱ中の④、⑤は、空家率がほぼ同じ割合となっているので、高齢者のみの世帯割合でいずれの地区が対応するのかを判断する必要がある。 地区Dは2020年に団地内の小学校が1校閉校となっていることから、1970年の開発当時の入居者の高齢化や子の独立により、学齢児童が減少するとともに、高齢者のみの世帯の割合が50%近くになっているものと考えられる。 一方で、地区Eは2022年に団地内に学習塾が1校増えていることから、学齢児童が増加したものと考えられ、2010年に入居が始まった住宅団地には比較的若い世代の世帯が多く居住し、高齢者のみの世帯の割合は低くなっているものと考えられる。 以上のことから、地区Dと地区Eでは、地区Dのほうが高齢者のみの世帯割合が高いものと考えられ、④が地区E、⑤が地区Dに対応すると判断した。</p>				
7	1	<p>初めに、地図Ⅰ～Ⅲを相互に比較させ、3つの工業で工場立地の傾向が異なることを読み取らせる。 次に、「なぜ、それぞれの工場立地の傾向が異なるのだろう」という問いについて、製品の生産・流通・消費や人件費に着目させながら、それぞれの工業の立地に影響を与える要因を追究させ、原料や製品の輸送費、人件費、地価などが工業の立地に影響を与える要因となることを捉えさせる。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。</p>	18
	2	<p>考察の対象 映像や音楽、アニメーションなどの制作や販売に関わるコンテンツ産業</p> <p>理由 技術革新によって、付加価値の高い知識集約型の産業が新たに生まれてきたため。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。 考察の対象と理由が対応しているものだけを正答とする。</p>	6

20

24